豊橋文化

vol.43 隔月発行 2022.4.15

[発行所]（公財）豊橋文化振興財団（PLAT内）
[連絡先] 豊橋市西小田原町123
TEL（0532）39-5211　FAX（0532）55-8192

第51回長唄演奏会を開催します。

本来2年前に盛大に開催予定だった第50回記念長唄演奏会の代わりとして、囃子方を招き、第51回長唄演奏会を開催いたします。ぜひ皆様ご来場くださいますようお願いいたします。

日時●令和4年5月8日（日）12時開演（11時開場）
場所●豊橋市民文化会館ホール

▶出演／勝奈栄会、松の実会、さくら会
▶番組／一、元禄花見踊（豊橋長唄協会）　二、勝三郎連獅子（勝奈栄会）
三、供奴（さくら会）　四、賤苧環（松の実会）
五、風流船揃（勝奈栄会）　六、菖蒲浴衣（さくら会）
七、新曲浦島（松の実会）　八、島の千歳（勝奈栄会）
九、靭猿（さくら会）　十、正治郎連獅子（松の実会）
十一、梅の栄（師匠連）
▶**入場料**／無料
▶**問合せ**／豊橋文化振興財団（☎0532-39-5211）

今号の一枚

「春の散歩道（向山大池）」
パステル（F 6号）
加藤智子（さとこ）

東京から豊橋に移り住んで、30年程になります。子育てをしながら「じゃん、だら、りん」にもなじんで、すっかり豊橋の人になりました。温暖で四季折々にいろんな花が咲くこの地が大好きです。桜の頃は、毎日のように向山大池周辺をウォーキングしながら、スケッチを楽しんでいます。

写真100展　出品作品募集!

（公財）豊橋文化振興財団が主催する写真展です。広く一般の方からも作品を募集しています。申込書は文化会館にて配布いたします。とっておきの1枚をぜひ発表してみませんか?

展示会期●令和4年5月31日（火）～6月5日（日）
9時～ 17時（最終日は15時まで）
展示会場●豊橋市民文化会館2階展示室

▶搬入日／令和4年5月20日（金）～ 5月22日（日）9時～ 16時
▶申込み／申込書に記載の規定に沿って作品を仕上げ、申込書に記入の上、搬入日にお持ちください。
▶問合せ／豊橋市民文化会館（☎61-5111）

豊橋文化祭協賛行事募集

豊橋市および豊橋文化振興財団では、市民の皆様の芸術や文化の振興のため、市内文化施設で実施する文化事業を「協賛行事」として広く募集します。

対象●東三河で結成された文化団体・企業が「対象期間」に市内で実施する文化事業で、収益を目的としないもの
対象期間●令和4年9月24日（土）【文化祭開会式典開催日】～ 11月30日（水）

▶協賛特典／①本紙等に催事情報を掲載　②実施団体発行の宣伝物に「豊橋文化祭協賛行事」と表示可　③財団指定管理の文化施設（市民文化会館、公会堂、ライフポートとよはし、三の丸会館　※PLATは除く）で実施の場合、期間中1団体1行事に限り利用料金を免除
▶申込み／ 6月15日までに申請書を（公財）豊橋文化振興財団（〒440-0887　豊橋市西小田原町123　PLAT内
☎0532-39-5211　Fax0532-55-8192）まで提出
▶申込書配布／ PLAT、豊橋市民文化会館　ほか

コーラスのつどい 参加団体募集!

（公財）豊橋文化振興財団が主催するコーラスの発表会です。毎年14 ～ 15団体ご参加いただいています。申込書は文化会館・PLATにて配布しております。

開催日●11月16日（水）午後12時30分開演
開催場所●豊橋市民文化会館ホール

▶申込み／申込書にご記入の上、豊橋文化振興財団（PLAT内　TEL:0532-39-5211　Fax:0532-55-8192）へご提出ください。※申込書は文化会館・PLATにて配布。
▶締切／ 5月31日（火）
▶対象／市内コーラスグループ
▶その他／ 3回の代表者会議と、1週間前（11月9日）に1回リハーサルを行います。

VOL.2 気まぐれプチ旅　日展とミニマル／コンセプチュアル

斧路朱音

少し前になるが、名古屋栄の『愛知芸術文化センター』で開催していた対照的な2つの展覧会を鑑賞した。

その内の1つは、官展系の流れを汲み『公益社団法人日展』が主催する公募団体展「第8回日本美術展覧会」通称“日展”だ。会場の始まりは、高価な岩絵具をふんだんに使った厚塗りの伝統的（?）な日本画（第1科）…巨大な絵画が犇めき合いながら並んでいる。その中にチンパンジーを丹念に描写した鈴木一正（豊橋在住）の《願う》を発見して、ほっこり!日本画に続いて、洋画（第2科）・彫刻（第3科）・工芸美術（第4科）・書（第5科）の順で展開。多彩なジャンルの中でいつも目を引くのが工芸美術部門で、オブジェのような洗練された力作が目立つ。

次に10階にある『愛知県美術館』に移動し、もう1つの「ミニマル／コンセプチュアル」の会場へ…副題に<ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960—70年代美術>とある。ドロテ&コンラート・フィッシャー夫妻が1967年にドイツ・デュッセルドルフに開設した『フィッシャー・ギャラリー』は、類い稀な先見性と幅広い活動から、伝説的な存在として語り継がれている。本展は同ギャラリーが保管し、私も一度足を踏み入れたことのある『ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館』（デュッセルドルフ）に近年収蔵された貴重な作品と資料、さらに日本国内に所蔵される関連作品を同時に並べて、18作家の活動を振り返る試みだ。

ミニマリズム（完成度を追求するために装飾的なものを排除して、必要最小限まで省略する表現スタイル）やコンセプチュアリズム（作品の形としての物質的、形態的な側面より、作者の思考や意図など観念的な側面を重視し、文字や記号、既成のイメージなどを利用）が生まれた当時の雰囲気が再現され、現代アートの基となる思想やアイディアに触れる良い機会となった。特に第3章<数と時間>には河原温の《コンラート・フィッシャーに宛てた絵葉書》や《一電報》《一手紙》のほか、《フィッシャー・ギャラリーにおける個展の招待状》（ポストカード）も展示され、興味深く拝見した。

『愛知芸術文化センター』を退出し、地下鉄東山線で名古屋駅へ… 『名鉄百貨店』地階の『覚王山吉芋』の出店で《塩花火》と《拍子木》を購入。伝統的な芋菓子を現代風にアレンジした言うなれば“新感覚素朴系和スイーツ” …若い女性やオジサンたちにも幅広く支持されている。

第８回日展　願う　鈴木一正

ペン書道展　出品作品募集!

（公財）豊橋文化振興財団主催 ペン書道展を開催します。ペン（ボールペン・万年筆など）で詩・俳句・文章などを表現していただくものです。普段使う筆記具ですが、ぜひ一つの作品に仕上げて出品してみませんか?申込書は市民文化会館にて配布しております。

展示会期●令和4年6月27日（月）～ 7月3日（日）
9時～ 17時（初日は13時から／最終日は16時まで）
場所●豊橋市民文化会館2階展示室

▶申込み／申込書に記入し、申込書記載の通りに作品を仕上げて、搬入日に市民文化会館へお持ちください。
▶搬入日／令和4年6月17日（金）～ 19日（日）9時～ 16時
▶問合せ／豊橋市民文化会館（☎61-5111）

春の市民茶会を3年ぶりに開催いたします。

※前期は中止となります。後期のみの開催です。

一昨年、昨年と新型コロナウイルスのために開催中止となった市民茶会ですが、今年は規模を縮小して、予約制にした上で実施いたします。感染症対策に留意する必要があり、以前のように大規模な市民大茶会とはいきませんが、気軽な市民茶会で一服のお茶を楽しんでみませんか?

日時●4月24日（日）午前10時～午後3時20分
場所●豊橋市民文化会館

▶参加流派／松尾流、表千家不白流（順不同）
▶呈茶料／ 600円（事前予約制）
▶予約方法／
電話の場合
◎豊橋市三の丸会館　TEL.0532-56-6022
（電話受付時間:9時～ 16時30分）
ホームページの場合
◎豊橋市民文化会館ホームページ
http://www.bunzai.or.jp/shiminbunka/index.php
よりお申込みください。
下記QRコードからもお申込みいただけます。

松尾流　　表千家不白流

文化団体紹介 Vol.35　ダンス　スマイルキッズ

「体を動かすことが楽しい」「続けていればいいことがある」と思ってもらえたら嬉しいですね!

今回はダンスチームのスマイルキッズさんを取材してきました。

―スマイルキッズさんはどんなダンスチームですか?

スマイルキッズは約15年前に結成され、4歳から28歳までの約80名が所属しています。私は「音に体を合わせる」のがダンスだと思っているので、ダンスのジャンルは問わず、よさこいからアニソンまで、そしてアクロバットも取り入れています。旭、牟呂、石巻、吉田方、飯村の校区市民館で週に1回ずつ練習をしています。

―4歳から28歳まで、とかなり年齢差がありますね。

年上の子たちが年下の子たちの面倒を見てあげることで、自然に「自分たちがやってきてもらったことを下の子にもやってあげる」という習慣がついています。年齢関係なく仲良くコミュニケーションをとっていますよ。

―どのような場で発表を行われていますか?

4月はのんほいよさこい、7月はみなとまつり、8月はみなとフェスティバル、9月は地元のお祭り、10月は豊橋まつり、11月は校区市民総合芸能祭に出演しています。依頼があれば喜んで出演させていただいています!

―踊る曲は先生が決められるのですか?

出来るだけ子どもたちに振るようにしています。「何踊りたい?」と振ることで、相談し、意見を伝える機会を設けています。

―今は体を動かすことが苦手な子が多いように感じます。

そうですね。外遊びが少ないことや、幼い頃からサッカーや野球など専門性のある習い事をして、そこで上手くいかず「体を動かすのが苦手」で終わってしまう子もいるので、そうではなく他のことにも挑戦してみてほしいですね。

―ダンスを教えるにあたって大切にされていることは何ですか?

「人と比べないこと」ですね。人それぞれ条件が違うので、最後にその目標を達成できれば良いと思うんです。諦めるのはもったいないですよね。すぐに「出来ん!」と言われますが、「じゃあまずは30回やってみよう!」と言ってみます（笑）もちろん、けがをさせてしまわないように気を付けていますので、側転やバク転などは完成までの工程を細かく区切って私が確認するようにしています。「体を動かすことが楽しい」、「続けていればいいことがある」と思ってもらえたら嬉しいですね!

催し物スケジュール 5月～6月

※この予定表は予告なしに変更になる場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

豊橋文化　2022年4月発行

市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合先までご連絡ください。

5月

5日(木)・(祝)

森下元康メモリアル・オーケストラ2022　十三回忌追善特別演奏会
時間●9時～　場所●ライフポートとよはしコンサートホール　入場料●無料(要・入場整理券)
演目●ベートーヴェン:交響曲第3番『英雄』ほか　指揮●現田茂夫
コンサートマスター●三浦章宏

6日(金)

裏千家六日会月釜
時間●9時～　場所●三の丸会館　参加費●800円　担当●内藤宗緑

8日(日)

第51回長唄演奏会
時間●12時開演(11時開場)　場所●豊橋市民文化会館ホール　入場料●無料

9日(月)

国際芸術祭「あいち2022」関連講演会
時間●17時～　場所●穂の国とよはし芸術劇場PLAT　アートスペース
入場料●無料(要事前申込)
内容●国際芸術祭「あいち2022」の概要、並びにアートを絡めた都市・まちづくりの関係性についての講演

13日(金)

第785回邦楽鑑賞会
時間●14時開演　場所●豊橋市民文化会館ホール　入場料●無料
内容●市内邦楽団体による披露

水石展……15日(日)まで
時間●9時～17時　場所●豊橋市民文化会館2階展示室　入場料●無料
内容●天竜水石会による自然石の展示

14日(土)

第12回とよはし音楽祭
時間●13時～　場所●豊橋市民文化会館ホール　入場料●無料
内容●愛知県発全国に向けてこころの病を抱える方を対象とした「チャレンジド・ミュージックコンテスト」の発表

17日(火)

西村能舞台稽古
時間●14時～16時　場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円／月1回、10,000円／月2回　お問合せ●080-1063-3855

29日(日)

豊橋交響楽団第127回定期演奏会～新世界からロマン派の風が吹く～
時間●14時開演　場所●ライフポートとよはしコンサートホール
曲目●交響曲第9番『新世界から』(A.ドヴォルザーク)　ピアノ協奏曲 イ短調(R.シューマン)
スラヴ舞曲第1番(A.ドヴォルザーク)　指揮●松井慶太　独奏●野畑さおり(ピアノ)

31日(火)

第49回写真100展……6月5日(日)まで
時間●9時～16時　場所●豊橋市民文化会館2階展示室
入場料●無料　内容●市民・写真団体による公募の写真展

西村能舞台稽古
時間●14時～16時　場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円／月1回、10,000円／月2回　お問合せ●080-1063-3855

6月

3日(金)

第786回邦楽鑑賞会
時間●14時開演　場所●豊橋市民文化会館ホール　入場●無料
内容●市内邦楽団体の披露

5日(日)

茶道クラブ月例茶会※事前予約制
場所●三の丸会館　会費●一般600円/会員500円　担当●表千家不白流

第19回みちの会プロムナード・コンサート
時間●14時～　場所●豊川市小坂井文化会館フロイデンホール
入場料●一般:2,000円　小中高校生:500円
内容●ピアノ、声楽、ヴァイオリン、フルートの各ソロ、2台ピアノ(8手)等、10組によるクラシック・コンサート

ピティナピアノステップ6/15豊橋
時間●9時～　場所●穂の国とよはし芸術劇場PLAT　アートスペース　入場料●無料
内容●ピアノ演奏の発表・審査

6日(月)

裏千家六日会月釜
時間●9時～　場所●三の丸会館　参加費●800円　担当●菅野宗寛

12日(日)

第8回満帆会
時間●12時～　場所●穂の国とよはし芸術劇場PLAT　主ホール　入場料●3,000円
内容●西川流日本舞踊の発表会

西村能舞台稽古
時間●14時～16時　場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円／月1回、10,000円／月2回　お問合せ●080-1063-3855

15日(水)

水曜短歌会
時間●13時30分～　場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

17日(金)

第51回石木展……19日(日)まで
時間●9時～17時　場所●豊橋市民文化会館2階展示室　入場料●無料
内容●豊橋石木協会による自然石木の展示

19日(日)

日曜短歌会
時間●13時30分～　場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

21日(火)

西村能舞台稽古
時間●14時～16時　場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円／月1回、10,000円／月2回　お問合せ●080-1063-3855

27日(月)

ペン書道展……7月3日(日)まで
時間●9時～17時(初日は13時から/最終日は16時まで)　場所●豊橋市民文化会館2階展示室
入場料●無料　内容●市民・団体より公募のペン書道展

豊橋の文化活動―アーカイブス⑪

～気骨の文化人たちⅡ～

【文化人たちの青春の遍歴　その1】

「働けどはたらけど　猶わが生活(暮らし)楽にならざり　ぢっと手を見る(石川啄木　一握の砂)より」

昭和8年5月創刊の雑誌「文化都市」の翌2月号において、南　龍雄(鈴木　充：後に東海テレビ社長、会長)が、黒暮土社(大正10年頃)、MLT(昭和3年)、戦旗讀者會(昭和4年)、小田原組、東三新人会(昭和6年)、(旧)豊橋文化協会(昭和8年)につて「豊橋プロ文化運動側面史」として紹介している。

○黒暮土社(大正10年頃)

豊橋地方に於けるプロレタリア文化運動の歴史を語る場合、プロレタリア的だとは言い得ないまでも、その先驅をなす一九二一年に創設された黒暮土社の運動まで遡らねばならい。

二十一年と言えば全国的にアナキズム華やかなりし時代で、同社も當時此の地方切ってのアナキスト河合陸郎、福澤宇助(卯介)、浅井秀雄、(他に野口品二)が参劃し、その名もロシアのアナキスト革命家クロボトキンの名をもぢつて出來上がった文藝団体である。クロボト社の活動としては成立早々にアナ系詩人井上康文を東京から招聘し、新川公徳舘で座談會を開いたり、或いは石川啄木の歌を研究し、それを中心に各自の研究を發表し合つたりした。それ以外には大した活躍も見せなかつたけれども、文化運動側面史には可なり澤山のエピソードを殘してゐる。

豊橋市に始めてアムール河の節の革命歌を輸入したのも、黒暮土社の同人であり、彼らはよく夜更けの札木町を音吐朗々革命歌を流して歩いたものだ。またこんなエピソードもある。一夜黒暮土社の同人、豊川べりにボートを浮かべ、お城から遥か下流に降り、「官憲の眼をくらますんだ」と言って、一寸先見えぬ眞の闇の中、巧みにオールを使つて夜の更けるのを知らなかつたといふ。如何にも氣分横溢で、後年マルクスボーイたちのカフエー革命家氣質と一脈相通ずるところがあつて面白い。(文化都市)と評されている。一方では大正11年3月に全国水平社が結成されているが、豊橋にあって、神明町にあった映画館「豊明館」で「琵琶歌」(大正7年作、田中栄三監督)と題する映画が上映された折には、内容が部落差別的である、と黒暮土社の同人が抗議し上映を中止させたという話も伝えられている。

野口品二

メンバーの野口品二(後に体育協会常務理事、豊橋市民愛市憲章推進協議会常任委員、陸郎より3歳年長)は陸郎が生涯の知己として親しんだ友人の一人である。品二によれば、啄木の命日の大正11年4月18日、大手通りの料理屋「舞鶴」に集まって啄木の歌を詠し革命歌を歌い、時勢を論じた。そして、この集まりを「黒暮土社」と名付けた、とあるが「黒暮土社」の成立年代は定かでない。

東京や阪神の大都会で時代の尖端をなす革新的な風潮に触発された青年たちが、相変わらず旧態然、前近代的な労使関係が定着し、いわゆる大正デモクラシーや労働運動の昂揚にほど遠い郷里に帰ってきて、知的な渇きをいやしながら青年の志を談じようとしたのが「黒暮土社」であり、南龍雄はこれを小市民的ではあったが、この地方において社会(主義)運動の先鞭をつけたと参陽随筆で評している。ただし、陸郎は昭和6年11月11日新朝報コラム・喫煙室で「かつて、私はアナキストをもつて任じたことはない・・」と述べ、そうした自らの若かったころの言動への評価を受け入れるのに、複雑な思いと一種のためらいを感じていたのではないか。(河合陸郎伝)

この後、陸郎は大正12年に浅井秀雄も参加した純然たる労働者組織・東海黒色青年連盟に参加するが(大正13年11月の主催演説会では官憲の検束にあっている)、黒暮土社などアナキズム運動はボルシェビズムの登場や労働組合、労働争議の萌芽がみられるようになると、前駆的な歴史的使命を終えて退場していった。

陸郎は、昭和4年には新朝報の主筆となり、実業団体の知恵袋と言われつつ「文化都市」の執筆にも加わった。そして昭和9年2月には、より全市民的な第一次豊橋文化協会の結成、機関紙「文化」の創刊へ発展して行くこととなった。

戦後は、執筆者として第二次豊橋文化協会を支え、「豊橋文化」創刊号では「國敗れて文化あり」と寄稿している。

昭和22年から愛知県議会議員、昭和35年からは豊橋市長に4期就任した。

> **國敗れて文化あり**(豊橋文化　第一巻　昭和21年　五月十五日発刊)
> 河合陸郎
> 『諸君は國敗れて何の文化ぞ・・・とでも言ひたいのだろう』とさる友人が後輩を前に一席辨じてゐた光景を私は今憶ひだす。丁度太平洋戰爭の始まつたばかりの頃の或る文化?青年の集まりであつた。
> ところが本當に日本は敗れてしまつた。そこで文化は何うなつたか・・といふよりも如何にあるべきかが私達に課せられた問題となつてゐる。然し戰爭中を色々の事情から戰爭傍觀者として終始して来た(翼賛壯年會役員等も固辭していた)私にとつて、それに答へることは差控へたい氣がする。が事實は『國敗れて文化あり』であり、文化の再建なくして敗戰日本の活路はあり得ない。
> 豊橋文化協會が敗戰日本の一隅から、文化運動の綜合的展開に乗り出したのには意義大なるものを認める。然しそれは戰前の所謂文化運動であつてはならない。若い世代の人々の智性と情熱を傾けての綜合文化運動の展開であつて欲しい。
> 私も諸君の末尾に附し、今迄の傍觀者的態度を捨て、地方文化の昂隆に努めたい念願を持つてゐる。
> ※陸郎は戦後昭和22年2月「地方公職適否(追放)審査委員」に就任している。

◎浅井秀雄は昭和20年に読売新聞の通信部のとき神野太郎から第二次豊橋文化協会の設立の相談を受け準備会を主宰していった。発足とともに常任理事となり、機関紙「豊橋文化」の編集にも携わり、事業についてもつぎつぎ新しいアイディアを出した。しかし、そのころになっても反骨精神は衰えず、昭和43年に文化協会が法人組織となって市から干渉を受けるようになると、理事をぷいとやめてしまった、という逸話が残っている。他方で若き頃ともに活動した河合陸郎市長は社団法人の設立に際し30分に及ぶ祝辞を述べ文化振興への一層の意欲をかきたてたという逸話もあり、文化への思いは一様ではない。

秀雄は明治34年三重県鳥羽生まれで10歳頃に豊橋に移住し、河合陸郎と八町高等小学校で同級生であった。昭和42年に郷土史随筆「豊橋」を発刊し、第18回豊橋文化賞を受賞している。黒暮土社結成当時、豊橋日日新聞の記者であったが、その後名古屋新聞社、豊橋通信社を経て読売新聞社豊橋支局長として戦後まで記者一筋に生きた人物である。

黒墓土社の仲間　大正12年

文化短信

▼豊橋文化短歌会
水曜歌会　2月

大池の橋渡りつつ何処より来
たるや白きユリカモメ見る　河合美智子
「置いててよ好きにするから」
洗濯も厨仕事も老母の領域　室　澄子
一日を一週間を一年を無事に過
ごしたきカレンダー見つむ　伊藤はつゑ
∞の始めと終わりはどこだろ
うわが裡にあるブラックホール　西郷賢谷
胸中のもみじは今も色褪せず
古き友らとコーヒーを飲む　夏目伊代子
わらしべを掴み長者の昔語り
マスクばかりが目につく歩道　篠田武子
祝婚歌のやうなる日ざし浴びな
がら菜の花海道伊良湖岬まで　洲淵智子
お勝手の片づけしたら戦果あ
りごみ四袋床広くなる　成瀬眞智子
みぞれる夜校庭ひとり金次郎
朝の登校子らを待ちはぶ　中島タエ子
やらなくていいことばかりに追
われる日視線の端に裏返しの猫　内藤よし胡
柚子風呂の柚子の香りは湯にほ
どけ心の芯までほぐされていく　岩瀬美子
額から流れる血潮怯まずに相
手に向かう力士勇まし　竹中寿美惠
春立ちて寒き日もあと温む日
も季節が綱引きたのしむ如く　原田敬子

▼日曜歌会2月

公園の時計を眺めてあと五分
歩け歩けと歌ひつつ行く　河合美智子
背後から月影浴びて吾が影が
両手を振って飛び跳ねている　西郷賢谷
ピューターのカップに珈琲入れ
て子へ父の愛とふ温ときかたち　丹羽智子
オーロラを広島の空に浮かべ
たし空には空の矜持のあらむ　宇佐美幸枝
暁にとほく梵鐘ひびき聴くあ
れは山寺赤岩寺の音　岡田宏子
短歌神がわが誕生日にくださ
った土岐秋子著『短歌入門』　成瀬眞智子
冬の陽を満タンにしてやどり
ぎの緑の風船ふはりと浮かぶ　池田あつ子
車から別れの手を振る赤信号
君は両手振る歩道橋から　岩瀬美子
自転車に春の空気をつめ込み
てルンルン走る梅園の道　岡田米子
雑草と言うより他に名を知ら
ずせめて踏まずに歩いてゆこう　真造富久代

▼水曜歌会3月

向い風に向けて川から離れゆ
く金黒羽白は北へ出発　夏目伊代子
技科大の右にくっきり富士は
見ゆ富士見町なる展望台に　河合美智子
裸木の桜にたたずむ少年の灰
色のパーカー深深と冬　長谷川公代
大寒の入り陽は眼くらむ程思
わず背筋伸ばして帰る　岩瀬美子
用水のコンクリート底を濡ら
しゆく音無き雨の早春告ぐる　原田敬子
数独が性に合うのかやり出す
と何度やってももっとやりたい　成瀬眞智子
歌友の家のひなたの匂ひもとも
どもに貰ひて帰る切干し大根　洲淵智子
積ん読の上の赤べこ頷いて買っ
てしまえばいつかは読める　篠田武子
ディジーが咲き揃うほど海岸
に春を感じてカレンダーの中　竹中寿美惠
オミクロンいったい何処で受領
したサタンの悪戯レターの如し　西郷賢谷
似てきしは指の形やその長さ
母の手想ひ湯槽にほどく　室　澄子
椀の中大根里芋葱泳ぎ味噌が
治めて朝餉にのぼる　伊藤はつゑ
2が6つつそろう朝刊空蒼く
午後はしぐれて春まだ浅し　中島タエ子

▼日曜歌会3月

祖母を尋ね来し人「おまつさ
ま」と呼びかけし声今も残れり　河合美智子
大寒の月光遊ぶお砂場にトン
ネル長く掘られておりぬ　岩瀬美子
若いころ時間足りずで困った
が時間ありすぎ今困ってる　成瀬眞智子
春遠く戦火の報に胸いたむ理不
尽にひとの暮らしは壊されてゆき　池田あつ子
アオモジの花瓶の蕾のさきに
ある北設楽とふ山間の空　丹羽智子
オミクロンに自由を取られてし
まったよ妻子・孫まで濃厚の印　西郷賢谷
吉良の里の黄金堤はいま静か
さくら咲かねば訪う人もなし　真造富久代
茂吉さへさみしささびしと詠ひ
けるほんに寂しきまつかな夕日　岡田宏子

▼豊橋市民俳句会
第646回句会

草の芽やふはり踏み出すフェルト靴　佐藤英子
貝付きしままの海苔粗朶小屋の隅　篠田和代
草の芽の耐へて時期待つこころかな　鳥居節子
城垣に草の芽のぞき鳥あそぶ　高橋良子
岸壁に簀子立て掛け海苔を干す　林春美
古戦場の日を抱き芽吹く逆さ桑　彦坂艶子
青空や畦に廃るる蕪の芽　藤田源一
逝く旅の化粧施し春の星　加藤美津子
海苔掻の舟傾けて傾けて　大河美智子
野仏も標の一つ草芽ぐむ　河合澄子

▼第647回句会

土雛や身丈に勝る鯛抱え　篠田和代
蒲公英や彩ほつほつと無人駅　加藤美津子
永き日や真珠筏に波の綺羅　佐藤英子
たんぽぽや子ら踏むまひと大跨ぎ　高橋良子
寄り径の余裕楽しき日永かな　鳥居節子
蒲公英や所嫌はずたくましく　林春美
鳥帰る城址貫く飯田線　彦坂艶子
たんぽぽや朽木に括る落し物　大河美智子
吾の欠伸友にうつして日永かな　藤田源一
撫牛の眼とろりと日の永し　河合澄子

▼豊橋番傘川柳会

帳消しにしたはずの垢滲み出す　小林ふく子
帳消しにしてやると言う恩を着せ　竹内そのみ
貸し借りはお互いさまが里にある　尾方　静子
何もかも帳消しにして骨拾う　竹本カヲル
返したら帳消しなんて甘すぎる　住田勢津子
五輪のメダル魑魅魍魎が帳消しに　山口タカシ
頑張ったでしょう許すと言ってよね　池谷英子
良い人でも喧嘩をすれば帳消しに　波多野律子
喧嘩して仲直りして日が暮れる　本多雅子
親友は帳消し出来る仲間よね　佐藤文児
帳消しにしたいが波紋いつまでも　戸沢ほたる
できるかな昔の怒り帳消しに　佐藤恭子
帳消しにしたい事あり紅を買う　鈴木順子
過去は過去時の流れで水となり　鈴木惠子
大笑いした後やってくる独り　寺部水川

▼本陣句会後期分入選作品

特選
本陣の忍び返しに春の雪　林邦子
秀逸
新松子蔵に名残の鬼瓦　中尾　美智子
振り返る細き街道春の月　広中雅子
佳作
奥行きの深き商家や軒簾　大竹宏一
上段の床に飾れる雛かな　大村　泰子
本陣や障子明りの雛の間　古賀敦子
秋の日や古地図の先を三河弁　新濃健
旅人や古式門松陣屋前　鈴木昭雄
春障子つるし飾りの影揺るる　高橋良子
秋時雨二川古き宿場町　田中正博